

通所リハビリセンター 茶釜の湯

棟上げで、全体像がくっきり

介護老人保健施設「すばる」で建設を進めている通所リハビリセンター「茶釜の湯」の棟上げが3月4日に行われました。茨城県内産の素晴らしい杉材をメインに柱として使った本格木造の建物で、リハビリ棟の15本目の柱が棟上げされ、姿を徐々に現してきました。

この施設の敷地で平成26年7月から温泉掘削を開始し、約1500mから湯冷めしにくく疲れが取れ、殺菌効果もあるナトリウム塩化物、弱アルカリ性の天然温泉が湧出。この温泉を「茶釜の湯温泉」と命名しました。

通所リハビリセンター「茶釜の湯」は、この温泉を利用した施設で、天然温泉のプールを利用したリハビリなどを行う定員100人の施設として、今春に完成を予定しています。

平成28年3月7日

最後の15本目の柱がクレーンで持ち上げられた日3月4日



全体像が見えてきた通所リハビリセンター



上空から見た通所リハビリセンターの工事現場



基礎工事の現場=1月中旬



木材で建物骨格を形成

